

平成 30 年 9 月 15 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 30 年度 第 8 回

私はスマホをかなり早めに使い出したのですが、その時の事を考えると、一大決心をしてスマホに変えた記憶があります。世の中はどんどん変わっていますから、やはりスマホは使わざるを得ないと思います。

以前、浜松町のロボットホテルに泊まったお話を致しました。受付はロボットだけ。その前に行ったハウステンボスのロボットホテルは、受付で困っていると後ろから人が出て来て会話をする事が出来ましたが、浜松町のホテルはタッチパネルで受付をしなければなりませんでした。タッチパネルが操作出来ない人、スマホが使えない人は客ではないという意志を明確に感じました。部屋に入るとホテルの説明書は何も置いてありませんで、その代わりにスマホが一つあって、部屋の中の操作方法はスマホでお読みくださいというわけです。スマホの操作が分からないと一人で泊ることが難しいと感じました。こういうホテルがこれから都心にはいくつも出来てくると思っていますので、今スマホを使っていない方は、これからは操作できるようにした方が良いでしょうと思います。

恒例の質問 — 失敗は天からの試練

では、最初に恒例の質問から参ります。ひと夏過ぎて、今現在どうでしょうか。

○ ひと夏過ぎて、良い日々が続いていると思う方

自分にとって好ましからざる事態が起きたりすると、良い日が続いたという所から外れるように思うでしょう。念押ししますが、客観的に見て、これが良い事でこれが悪い事だと天秤にかけず、主観で良い日だけを見るようにして下さい。

それでも駄目な場合は、こう考えるとよろしいと思っています。自分にとって、とても困る大きな事件、事故、災難が起きたとします。聖人君子まではいかないけれど、一所懸命努力をしている方々は、<これは自分を更に向上させるために、天が私に与えた試練である。自分を見込んで試練を与えてくれたのだから、これは自分が発展するための鍵になるのだ>と、その時はそう思えなくても頭の中を訓練すれば良いのです。

例えば、大きな病氣をして大変苦しい思いをしたとします。しかし 5 年、10 年経つてみると、一病息災という言葉どおり、かえって健康になっているかもしれません。大きな事

件や事故を起こしたなら、その後のもっと酷い事件や事故が起きるのを防いでくれると思えばよいのです。

私の事例を申します。健康法の一つとして自転車に乗っていますが、少し前に、土手を走っていて、いつもは車が通らないので一気に坂を下るのですが、その時は急いでいて回りを見ずにスピードを上げて坂を下り始めたところ、車が上がって来たので慌てて急ブレーキをかけました。そうしたら身体が跳ね上がって、坂道を転がり落ちてしまいました。その時は何ともないと思ったので、運転している人に「大丈夫です」と言ったのですが、3日経ってから痛みが出ました。おまけに、3ヶ月経った今でも傷痕が消えません。自分では若いと思っていたけれども、私の体細胞の回復力は弱ったということです。自分自身の体力を過信してはいけなかつくづく反省しました。

しかしながら、今は怪我をして良かったと思っています。何故ならばそれ以降、確認をしてからゆっくりブレーキをかけつつ下りるようになりました。自分の失敗を糧にして、注意力が向上しました。運転をしている時も同じように、気をつけながら運転しています。怪我をしたのは自分の判断力が足りなかったと天が警告してくれたのだと思っていますので、一番の反省材料であり、プラス材料になりました。

やはり人間は何か問題にぶつからないと反省して向上しません。全部順調にいったら、世の中を軽く考えてしまって、人生の後半にとんでもないしっぺ返しが来てしまうような気がします。ですから艱難辛苦や問題事は良いことだと思っています。

○ ひと夏過ぎて、嘘を比較的つかなかった方

○ ひと夏過ぎて、有難うと言い、有難うと言われることが多かった方

有難うと言われるためには、意図的に何かして差し上げるしかありません。もし有難うと言われなかったら、明日有難うと言われたと思って寝ればよいのです。脳は意識でコントロール出来るようですから、意図的に脳の訓練をするとよろしいでしょう。

○ 昨晚寝る時、今日は良い日だったと思って寝た方

今日は良かったと思って寝れば、翌日もすっきり起きられます。腹が立ったまま眠ると、翌日はすっきり起きられません。もしすっきり起きられなければ、夜中に脳がくたびれるくらい活動したことになりますから要注意です。では、手を挙げた方に伺います。

○ 明日も良い日だったなと思って寝た方？

・・・お二人おられました。脳を訓練すれば、そうってきます。良いことです。

○ ひと夏、健康法をよくやった方

塚越参与は早朝に運動して、大きな声を出す訓練をしようとおられました。良いことですね。歳をとると喉が衰えてきます。私の母親は、最後は水も飲みこめなくなって、

点滴になりました。ごくんと飲み込むには、大きな声を出しているとよい訓練になるそうです。

健康法が出来るということは、体が丈夫だからです。そして、自分の思い通りに健康法を実践したなら、身体に対して有難うと言えよいです。身体に感謝して下さい。

○ ひと夏、自分磨きをよくやったと思う方

殆どの方が手を挙げられました。どんなものでも結構ですから、是非自分磨きを実践して下さい。

君子に三戒あり

では、論語の解説に参りましょう。本日は季氏篇6・7です。

青木幹事の素読はよく読み込んでおられて結構でした。解説もして戴けそうな感じが致しました。これからは素読をした後に、私はここの部分が良いと思うとか、この文字が嫌だとか、解説が一つ入ってくれると嬉しいですね。

【六】孔子曰く、君子に侍するに、三愆有り。言未だ之に及ばずして言う、之を躁と謂う。言之に及びて言わざる、之を隱と謂う。未だ顔色を見ずして言う、之を瞽と謂う。

孔子が言うには、君子にお仕えするにあたって三つの過ちがある。

発言すべき時でないのに発言する。これを躁（せっかち）と言う。

発言すべき時に発言しない。これを隱（だんまり）と言う。

顔色を見ずに発言する。これを瞽（めくら）と言う。

会社で考えましょう。

躁・・・最近の言葉で言えば、空気が読めないということです。その場の雰囲気を感じないで、言いたい事を勝手に喋ってしまう。

隱・・・会議などで、名指しされても黙っている。

瞽・・・タイミングを計らずに勝手にしゃべってしまう。言うべき時か、黙っているべきかを判断するには、一対一の時であれば相手の顔色を見ていけば分かりますから、それが出来ない人を瞽（めくら）というわけです。

言うべき時に言わない、言うべきでないのに発言するというのは、今の自民党総裁選が当てはまりますね。ミスマッチが非常に多いと思います。石破さんは安倍さんが論戦に出てこないものだから、自分で勝手に発言しています。

こうしいわ　くんし　さんかいあ　わか　とき　けつき　いま　さだ　これ　いまし
【七】孔子曰く、君子に三戒有り。少き時は、血氣未だ定まらず、之を戒むること
いろ　あ　そ　そう　およ　けつき　まさ　ごう　これ　いまし　とう　あ　そ　お
色に在り。其の壮なるに及びてや、血氣方に剛なり、之を戒むること鬪に在り。其の老
およ　およ　けつき　すで　おとろ　これ　いまし　う　あ
ゆるに及びてや、血氣既に衰う、之を戒むること得るに在り。

孔子が言うには、君子に三つの戒めがある。

年少期（10代・20代）は血氣が定まらないから、異性関係に氣をつける。

壮年（30代・40代・50代）になると血氣盛んになって人とぶつかるから、争いごとに氣をつける。

老年（60以降）はすでに血氣が衰えるから、欲張ることを戒めなければならない。

「得る」とは、名誉欲や金銭欲、いわゆる強欲です。60を過ぎると、自覚をするしないにかかわらず身体が変調を来たします。その頃は、名誉欲や金銭欲に執着したくなるから氣をつけなさいと言っています。

得るを戒めると言っていますが、今の格差社会は凄まじいものがあります。憲法で保障されている最低限の生活など何処かへいつてしまっている氣が致します。政府は最低ランクを年収200万円以下と見ていますが、実態はもっと酷いと思います。今は、貧困層の増加のペースが激しいです。

今朝のテレビ番組で、社員数500人以下の企業のパート社員も年金に加入できるようになったので、老後の生活には朗報だとコメントしていました。これは何のことはない、年金の原資が足りないから本来は年金の対象でない人たちまで無理やり入れようとしているだけで、けしからんことだと私は見えています。その人達が歳をとって年金を貰えるのはいつでしょうか。今が65歳ですから、次は70歳になり、やがて80歳となりかねません。

もともと年金は積立て方式で始まりました。60歳になったら利息をつけて返す筈でした。それが途中、子供や孫からお金をとって支払う賦課方式に変わってしまいました。誰に相談もなく勝手にそうしてしまったのです。だいたい当初は、60歳になったらほとんど死んでしまっているから支払わなくてもすむ、というのがもともとの発想です。ところが今は80歳になっても元氣ですから、もともとの発想に追いつこうとして、支給開始年齢を80歳、85歳と、どんどん引き上げるような氣がします。

ということで、＜何かおかしいぞ？＞と思ったなら、一番最初の出だしを調べてみると分かります。人から聞いたのでは分かりません。自分で調べてみると腑に落ちます。

年金は最初から払う氣がなくて、その制度が作られていたわけです。源泉徴収制度も同

じです。戦費調達のため戦争中だけ源泉徴収をさせて下さいと行って始まったわけですが、今でも続いています。最初から守る気がなかったのだと私は思っています。なぜなら税金というものは、一度とったなら名を変え形を変え取り続ける、それが税金の歴史です。税金の歴史も知らずに源泉徴収を始めたのだとしたら相当の阿呆ですから、おそらく知っていて源泉徴収の制度を始めたのでしょう。ですからマクロで見れば、この国は嘘をついていると思います。

三つの戒めということで、佐藤一斎の「三学戒」を思い浮かべる方も多いと思います。一斎は「三学戒」で、少・壯・老と人生を三つに分けていますが、「視・観・察」についても、自分の人生を振り返って、それを年代に当てはめています。

「視・観・察」はご存知のように人物の観察法です。論語に「其の為す所を視、其の由る所を観、其の安んずる所を察すれば、人焉んぞ」とあります。まず、その人の言動をよく視る。そして、その言動の動機を観る。そうしていくと、その人が何で満足するか心持を察することが出来る。人物を見極める時、「視・観・察」の手法を用いると良いわけです。

佐藤一斎は、「視」は30歳迄で、表面を見る年代。「観」は30歳から60歳迄で、よく観察する年代。そして70歳以降が「察」の年代と言っています。

学びを深める 佐藤一斎～吉田茂へ

ちなみに私は今、佐藤一斎を執筆しています。赤城山でかなり読み込みましたので、今、資料と照らし合わせてテープに吹き込んでいるところです。それをベースに幾つか申します。

幕末の頃、佐藤一斎は相当色々な人々に影響を与えました。佐藤一斎から直接教わった人、著書を見て影響を受けた人、それらが入り乱れ敵味方に分かれて戦って、最終的に官軍が勝利したわけですが、幕府軍・官軍ともリーダーになった人達は佐藤一斎のものの考え方に相当影響を受けています。

吉田茂もそういう系譜を受け継いでいます。吉田茂の学び方は母親の士子（佐藤一斎の孫娘）から躰けられたわけですが、その躰のベースが佐藤一斎でした。資料を見ると、士子について「継母」とか「養母」と書いてあり、気になって吉田茂について調べました。

安岡正篤先生は「歴代総理の指南番」と言われますが、吉田茂首相が最初です。吉田茂が安岡先生の価値を認めて、自分よりずっと年下の安岡先生を「老師」と呼び尊敬したところから始まっています。そして吉田学校の門下生である佐藤栄作首相も、安岡先生を老

師と崇めて教えを受けていたことはご存じの通りです。

吉田茂の実の父親は高知出身の竹内綱という人です。元々は武士ですが、士籍を離れて横浜で商社を創めました。しかし、西郷隆盛が鹿児島で挙兵した時に鉄砲を調達したので、賊軍の見方をしたということで新潟に投獄されてしまいます。竹内綱は息子の茂を親友である吉田健三に養子に出すわけです。吉田健三の奥さんが士子です。吉田茂は17歳まで自分が養子だということを知らなかったといえます。

吉田健三は横浜の貿易商で、数十億の遺産を遺して亡くなったので、吉田茂はお金に苦労しない人生を送りましたが、総理大臣になる前に全部使い果たしてしまったそうです。総理大臣になってからの資金繰りはどうしたかと言うと、スポンサーがいます。吉田茂の娘の和子は麻生家に嫁いでおり、麻生家の当主が吉田茂に入れあげて、どんどんお金をつぎ込んだので、総理大臣その後の政治家人生を全うすることが出来たわけです。

吉田茂の人生を見ると、前半は親が遺した遺産を全て使い果たし、後半は麻生財閥の金を使い放題使った、そして常に自分はお金を持っていないという稀有な人物です。こんな面白いエピソードがあります。学士会館で開かれたパーティーで、不愉快になった吉田茂が退席し一人で学士会館からタクシーに乗って三越まで行ったのはよいが、財布を持っていませんから、三越のドアマンに「君、代金を払っておきたまえ」と言って支払いを任せたといいます。後で、娘の和子（麻生太郎の母）が恐縮して、三越にお金を返したそうです。安岡正篤先生も同じような話がありますね。

佐藤一斎を調べていると色々なところに広がりまして、話が逸れてしまいました。

今朝の新聞から・・・

では、時事評論に参りましょう。昨日は、鉄砲洲神社で詩吟の会がありまして、「江戸城明け渡し」に関する詩吟を練習しました。

幕末の三舟についてはご存知でしょう。勝海舟、山岡鉄舟、高橋泥舟、この人達がいたおかげで江戸城の明け渡しが無事に行なわれたわけです。表面的には西郷隆盛と勝海舟が対面して無血開場となっていますが、その前段階で、山岡鉄舟が西郷隆盛に会い基本的な合意を取り付けていました。山岡鉄舟の御膳立てがあったからこそ為し得たので、勝海舟は山岡鉄舟に対してたいそう恩義を感じていたわけです。

その鉄舟がいよいよ危ないとの知らせが入った時のこと、勝海舟が見舞いに行くと、玄関口に息子が出て「父は、本日旅立つと申しております」と、座敷に通されます。すでに大勢の人が集まっていて、鉄舟が座禅を組んでじっと瞑想している。海舟が傍によって「先生は御臨終と聞くが、如何か？」と言うと、鉄舟がやおら目を開けて、「ただ今、あの世

に行く所でござる」と答えた。それを聞いて海舟は、「よろしく旅立たれよ」と返し帰ります。そして海舟が帰り着いたと同時に、臨終の知らせが届いたといひます。鉄舟は坐禅を組んだまま往生したということです。

大きなことを成し遂げた人、又はこれから成そうとする人は、前段階で色々支える人がいなければいけません。また、大きな仕事を成し遂げる、大きな人物を世に出す場合は、下準備が要るのだと思ひます。

では、この流れで時事評論に参ります。

・総裁選討論会 首相、緩和出口「任期中」・石破氏「地方経済重視」(9/15 読売新聞)

安倍さんも石破さんも、本当に心底から惚れて、この人を是非とも支えたいと思つて集まった人がどれだけいるのでしょうか。安倍さんは右を向き左を向き、うろうろしながら85%の議員票を得ています。この人達は心から安倍さんを支えようというのではなく、自分が良い思ひをしたいからくつついていただけに過ぎません。石破さんも派閥は作らないと言つていましたが、20人ぎりぎり派閥を作りました。

朝廷のことを考え、江戸市民のことを考えて命を顧みず動いた山岡鉄舟のような人物は、今の時代はいないのかと感じました。

・北海道「2割節電」解除(9/15 読売新聞)

先週土曜日の東京フォーラムでとり上げた時も、読売新聞は「北海道で大地震があつた。でも電力は直ぐに復旧します」という書き方で、地震のことは殆ど載せていませんでした。朝日新聞には沢山載っていました。

新聞によつてずいぶん論調が違いますね。おそらく読売新聞は、安倍さんに付度をして載せないのだと私は見ています。今回は総裁選を盛り上げなければならないということで、5、6面を割いて掲載しています。そして、論説や識者と言われる人たちの書き方を見ると、どうも安倍さんにエールを送つていると感じます。

いずれにしても日本人は熱しやすく冷めやすいから、「2割節電の解除」となると、もう大丈夫なのかと思つて忘れてしまいます。いわんや、西日本豪雨は忘れられてしまいますね。同じ読売新聞の後ろの方に、天皇皇后陛下が岡山県に御見舞いに行かれたという記事がありますが、とても小さい扱ひになっています。

西日本豪雨については中斎塾フォーラムでも義援金を募つて、高梁市災害対策本部に7月・8月・9月の3回に分けて送ると決めて、既に2回送つています。前回、前々回とも、送金後に高梁方谷会の石井会長から御礼の手紙が届いていますので、お伝え致します。今日は最後の募金になりますので、皆様の御協力をお願い申し上げます。

・リーマン破綻10年

今朝の読売新聞で目を引いたのは、「リーマンショック10年」と題して見開きで大きく出ていました。リーマンショックが起きて、10年間で世界経済がこれだけ大きく変わったということを纏めていました。

今の日本経済が落ちている原因、リーマンショック以降アベノミクスなど色々やっていますが浮上しないのも、根っこはここに 있습니다。ですからリーマンショックがなぜ起きたかということを我々は考えるべきです。

先ほどの論語の「三戒」に名誉欲・金銭欲とありましたが、人類は斯程まで酷いものかと考えなければなりません。名誉欲・金銭欲が行き着いたところ、つまり強欲でリーマンショックが起きたわけです。それによって世界全体がおかしくなっています。

では、なぜそんなに強欲になったのか……。深掘りすると、資本主義社会と社会主義社会のぶつかり合いが見えてきます。もう少し掘り下げると、通貨というものを人類が発明したからこうなったので、通貨の負の側面が見えてきます。しかしながら、そういう欲望があったから人類社会は進歩した。文化、文明も発達したのだとも言えます。

何度も申し上げていますが、新聞をみたら、〈これはなぜ？ その原因は？〉と考える癖をつけて下さい。そうすると縦の学問を掘り下げることになります。リーマンショックの問題をずっと掘り下げると、通貨の発明につながって来ます。

同じく9面に、「米利上げ 世界に通貨不安」という記事がありますが、こんなことは当たり前のことです。もう通貨は要らないという時代に入って来ています。冒頭、スマホでチェックインするホテルの話を書きましたが、時代はそう変わりました。目の前の紙幣やコインはなくなっています。ただ、いっぺんになくすと問題だから、少しずつ少しずつ世の中の通貨量を減らしていく、今はそういう段階だと思って戴くとよろしいでしょう。

基本哲学「知足」

ちなみに、佐藤一斎の文章の中に「知足」について触れているものがありました。出版する本の中でも紹介したいと思っています。

「足るを知る」については、「ほどほど」とお考え下さいと申し上げています。食べ物もほどほどです。食べ過ぎても少なすぎてもいけません。体力づくりもほどほどです。やり過ぎても、やらの過ぎても害になります。「ほどほど」とは、かなり広範囲で良い言葉だと思います。ですから「知足」＝「ほどほど」と胸を張って言って戴いて良いと思います。

らしくなされ

本日のテーマは「十牛図」の3回目になります。ご紹介する本は中村天風先生を題材にした小説、『戦場と瞑想』『ヨーガに生きる』『心機を転ず』、おおいみつるさんの書かれた三部作です。小説なので気楽に読めますのでお勧め致します。

自分を磨いていく時、今自分はどの段階にいるかを考えるために、「十牛図」一～十の段階を説明しました。本日は、6番目の「騎牛帰家」を取り上げます。

騎牛帰家・・・不平不満がない、我ながら綺麗な心を持っているなど感じる。これが一番良いですね。天風先生の言われる、「らしくなされ」です。中斎塾フォーラムで学んでいるなら、「塾生らしく」過ごして戴くと良いと申し上げて、本日の講話を終了致します。有難うございました。